

あわせて行こう!

「ふたばいんふお」から車で約20分

双葉町

東日本大震災・原子力災害伝承館

DATA→P96



2020年9月に開館

地震・津波・原発事故…世界で類を見ない複合災害を経験した福島県。東京電力福島第一原発から約4kmの場所に立つ伝承館は、原発とともに歩んできた震災以前の地域の様子から、震災、原発事故、避難へと至った過程が解説資料や現物展示、映像などで紹介されています。除染、風評被害、健康への影響、長期化する避難。時が止まっていた福島の復興はまだ道半ば。自らの目で見て考えることが大切です。



約200点の資料を展示



見学はシアター上映から始まる

Recommend ここに注目!

プロローグで上映される5分間の映像は、福島県出身の俳優・西田敏行さんのナレーションで始まります。思いが込められたその声に「福島の実状を共有するんだ」と気が引き締まります。語り部講話も絶対聞いてほしいですね。原発は国内・世界各地にあり、自分に関係ない話ではありません。原発についての正しい知識を学ぶ必要があると思います。



防災イラストレーター ico.

9年をかけたようやく全線再開通!



新駅舎の待合室は、旧駅舎をできる限り再現



待合室の中は、かつての駅舎の写真などが展示されている

4 新しく生まれ変わった「JR夜ノ森駅」

地震と原発事故の影響で工事が困難な区域(JR常磐線 富岡駅～浪江駅)にあった夜ノ森駅は、建物の老朽化が進み2019年に解体となりました。しかし2020年3月、震災から9年の時を経て帰還困難区域を通る区間も全線再開通されることとなり、夜ノ森駅は新駅舎となって生まれ変わりました。

5 春が待ち遠しい「夜ノ森 桜のトンネル」

富岡町の名所といえば、全長2.2kmの道沿いに420本が咲き誇る桜のトンネル。樹齢100年を超えたソメイヨシノも見られます。一帯は“特定復興再生拠点区域”に指定されており、2023年春の避難指示解除に向け、立入規制緩和や準備宿泊など少しずつ動き始めました。満開の桜の下で住民の笑顔を再び見られる日が待ち遠しいです。



春に満開となった桜のトンネルの様子
空気が自立したトンネル周辺だが、少しずつ人が戻り始めている



全国からも訪れる桜の名所

6 「震災復興記念碑」と静かに向き合う

最後は麓山神社にある震災復興記念碑を訪れます。向かう道中には震災以前田んぼだったという場所に太陽光パネルが広がる野原がありました。その背景には稲作を諦めざるを得なかった米農家の苦渋の決断があったのだとか。記念碑を見つめながら、“現在進行形”である復興の道のりを改めて認識させられました。

毎年8月15日に開催される「麓山の火祭り」でも有名な麓山神社。石碑にはこの町で起きたこと、そして復興の過程が記されている



後世に残された言葉を心に刻む

1 まずは「ふたばいんふお」で情報収集

施設内にびっしりと埋めつくされたパネル、資料の数々。双葉8町村(葛尾村、浪江町、双葉町、大熊町、川内村、富岡町、楡葉町、広野町)をはじめ、消防、警察、東京電力など、関係各所の情報が住民目線で分かりやすく取りまとめられています。町の歴史や特産物なども紹介され、震災だけではない町の姿を知ることができました。



ふたばいんふおにはカフェも隣接。ランチや休憩に立ち寄ってみよう(土・日曜、祝日休)

住民目線で伝える双葉のリアル

関連書籍やリーフレットのほか、双葉郡の物産、グッズも販売されている

津波によりひしゃげたガードレール。浜街道が整備される以前は、向こうに海が見えていた



時が止まっていたこの町の今

毛萱地区で奇跡的に残った毛萱観音。手前にモニタリングポスト(放射線監視装置)が設置されている

2 車窓から「あの日の痕跡」を巡る

東京電力福島第一原発事故により半径20km圏内にある富岡町は、平成23年(2011)4月22日に町全域が警戒区域に指定され、全町避難を余儀なくされました。帰還困難区域を除く避難解除指示が出されたのは6年後の平成29年(2017)。沿岸では防災緑地の整備が進められている一方で、いまだに地震、津波の痕跡が残されています。

3 「富岡漁港」から東京電力福島第二原発を望む

富岡町と楡葉町にまたがる東京電力福島第二原発。2064年度の完了を目指し現在廃炉作業が進められている



原発とともに歩んできた町なんです



津波により折れてしまった「ロウソク岩」。現在は根元だけが残っている



2019年にはかつての漁船が戻り盛大に「帰港式」が開かれた。写真は海釣りでも人気の遊漁船「長栄丸」

震災を学ぶたび

福島・富岡

ふたばいんふお

DATA→P99

東京電力福島第一原発事故による帰還困難区域が町面積の約1割を占める富岡町(2023年1月現在)。民間団体によって運営される「ふたばいんふお」は、双葉8町村の現状を共有し伝えるための場となっています。住民目線の言葉に耳を傾けましょう。

スタディーツアー

知りたいこと、行きたい場所など来訪者の希望に合わせてオーダーメイドでプランを作成。今回は1時間30分ほどかけて富岡町内を車で回り、町の被災状況や復興の様子を案内していただきました。

料金 無料 ※要予約・相談

案内人 ひらまつとむ 平山 勉さん



「ふたばいんふお」を設立した経緯を教えてください。(2015)平成27年(2015)に立ち上げた「双葉郡未来会議」がはじまりです。双葉8町村の情報や課題を共有し合うなかで、常設展示をする場が必要だと感じ、自らの出身地である富岡町に設立しました。住民同士がつながる場だけでなく、この地域を知りたいという方にも自由に利用していただけます。

民間組織ならではの違いはありますか? 語り部は基本的に来訪者の希望に合わせて、オーダーメイドで組みます。単純に語り部の枠に収まらず、住民目線や、原発とともに歩んできた地域の歴史や思いをありのままにお話します。県や町の情報以外にもいろんな側面から伝えることが大事だと思っています。

来訪者に感じ取ってほしいことは何でしょうか? 避難指示が解除されたばかりでまだ人口の2017年から、少しずつ風景が変わってきています。どんな経過をたどって今があるのか…。直接話を聞きながら、この地域のことを知っていただきたいです。